

令和5年度 一般介護予防事業の取組状況

	No.	事業名等	内容	実施日	開催回数・参加人数
介護予防把握事業	1	実態把握	地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの総合相談業務の中で、民生委員等地域の関係者と連携を図り、地域の高齢者の心身の状況や家庭環境等を把握することにより、支援を必要とする高齢者や家族を早期に把握し、早期対応を図った。	随時	
介護予防普及啓発事業	1	介護予防出前講座	高齢者が参加する団体に講師を派遣し、介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発のための講座を実施することで、通いの場等の充実を図った。 フレイル予防は、3回コースに加えて1回コースを設けて実施した。	随時	開催回数28回、延べ人数446人 (内訳) シナプソロジー:7回、延べ117人 食事・栄養:3回、延べ46人 体力測定:7回、延べ114人 お口のケア:1回、11人 フレイル予防:1回コース1回、25人 3回コース1回、延べ31人 口腔機能向上:3回、延べ67人 はにとれの紹介:3回、延べ35人
	2	介護予防研修会	転倒予防のためのバランスの取り方、自宅出来る運動などリハビリの専門職が実技を含めた介護予防に関する研修会を開催した。	令和5年7月20日	参加者数33人
	3	認知症初期スクリーニングシステム	軽度認知障害に関する周知や早期発見のため、認知症簡易チェックサイトのチラシを介護保険証に同封した。またセルフチェック表を認知症普及啓発イベントに設置し、併せて適切な相談窓口を周知した。	通年	延べ人数2,114人
地域介護予防活動支援事業	1	はにとれ教室	市主催教室と児玉包括主催教室、介護予防出前講座にて体力測定やアンケートを行い、評価をした。休みが続く等心配な参加者がいる場合には、地域包括支援センターへの相談について教室リーダーに周知するとともに、市主催教室においては休みが続く参加者には個別に連絡をし、必要な機関やサービスへつないだ。 はにとれ動画をホームページ及び本庄ケーブルテレビで年間を通して放映した他、厚生労働省ホームページ「通いの場」に当地体操マップに公開した。	通年	参加者実人数2,123人、延べ34,833人 登録79団体(新型コロナウイルス感染症の影響により1団体休止中)
	2	はにとれサポーター養成講座	筋力トレーニング(はにとれ)を行うサポーターを育成するため、北部圏域地域リハビリテーション・ケアサポートセンターから派遣された講師の協力を得て養成講座を実施し、併せてボランティア登録を行った。登録者と教室のマッチングを行い、新たに1名市主催教室のリーダーとなった。	令和5年10月～11月 全6回	全6回、参加実人数21人、延べ人数105人 サポーター登録8人
	3	はにとれ教室リーダーフォローアップ研修	はにとれを行う団体の代表者やリーダーを対象に、北部圏域地域リハビリテーション・ケアサポートセンター派遣の講師の協力を得て転倒予防やフレイル予防等の知識や情報提供、NPO法人チームFの協力を得てはにぼんお口の健康体操の周知や、リーダー同志の情報交換を行った。	令和6年1～3月 1コース2回×3会場(本庄2会場、児玉1会場)	1コース2日間×3会場 実人数68人、延べ人数111人
	4	あたまとからだの健康教室	あたまとからだの健康教室サポーターの協力を得て、認知症予防に有効とされる運動や頭を使ったゲーム等を行う教室を開催した。	令和5年5月～7月 令和5年9月～11月 令和6年1月～3月 1コース8回×6会場(本庄3会場、児玉3会場)	1コース8日間×6会場 実人数96人、延べ人数640人
一般介護予防事業評価事業			はにとれやいきいき教室等で実施した体力測定や基本チェックリスト・アンケートの結果を分析し、リハビリ専門職と共有し助言いただいた。 要介護認定の新規申請時の原因疾病について調査した。	令和6年3月	はにとれ教室 体力測定実施者数258人、アンケート実施者数277人(市主催教室7会場、児玉地域包括支援センター主催会場1会場、介護予防出前講座利用5団体で実施) いきいき教室 アンケート実施者数109人
地域リハビリテーション活動支援事業	1	いきいき教室	リハビリテーションの専門職を講師とし、介護予防に関する講話や参加者に応じた運動等を実施した。参加者に基本チェックリスト及びアンケートを実施し評価を行った。	市内4会場 毎月1回 (夏休み期間を除く)	月1回×4会場 実施回数44回 参加実人数148人、延べ人数1,065人
	2	はにぼんお口の健康体操	はにとれフォローアップ研修にて、NPO法人チームFの協力により、通いの場におけるはにぼんお口の健康体操の周知及び実技指導を行った。	令和6年2～3月 全3回	実施団体50団体 実施回数1,540回、実人数1,323人、延べ人数22,718人
取組の結果 ・市主催はにとれ教室やいきいき教室、介護予防出前講座における体力測定・基本チェックリスト・アンケートを今年度も実施しました。体力測定の結果については、男性については実施者数が少なく比較困難であったものの、全体として令和4年度と比較するとほぼ横ばいであり、筋力が維持されていることがわかりました。また、基本チェックリストの結果については、認知症リスクのある人が一番多く、続いてうつ、口腔機能リスクが多くなっています。全体としてリスクのある人は減少していましたが、参加者の約8割以上が85歳以上であることから今後も注視する必要があります。アンケートの結果については、はにとれ教室への参加が5年以上の場合は、参加者同士で出席を気遣っている人が多く、参加を継続することで人とのつながりも強化されていることがわかりました。参加者同志がつながるきっかけを持てるよう、教室リーダーと運営の工夫について考えることも必要と考えます。 ・はにぼんお口の健康体操について、新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた団体が一再開したり新規実施団体が増えたため、実施方法の確認等のフォロー体制が必要です。 ・通いの場への参加者に男性が少ないことや、後継者の問題については、様々な形の通いの場の創出や若い世代への周知、サポーターの人材育成とマッチング、また、高齢者の生きがいづくり等を含めた他事業と連動や関係機関と連携した取組を引き続き検討していきます。 ・はにとれ教室は市内79か所にあります。会場に来ることができない人もいるため、移動手段については生活支援体制整備事業と連動して検討するとともに、サポーターの出張等新たな資源の創出も検討する必要があります。 ・今後も保健事業と介護予防の一体的実施担当課とさまざまなデータを活用しながら課題分析し、取組ポイントを整理しながら介護予防を推進します。					